

# 中美研会報 No. 144

2020.3.13 中越美術教育研究会 事務局/長岡市豊詰町227 長岡市立上組小学校 〒940-1142 ☎(0258)22-0959 印刷/榊中央印刷

## 今年度の活動を振り返って

中越美術教育研究会 会長  
目黒 由美



2年前、当研究会が主催した第31回新潟県美術教育研究大会中越大会において、当時、聖徳大学教授 奥村高明様より、「新学習指導要領における図工美術教育」と題してご講演をいただきました。その最後に、参会者に向けて語られた言葉が強く印象に残っています。

「子どもは、子どもだけではかけがえのない存在にはなれない。「あなたが大切だ」と言ってくれる存在が必要。かけがえのないのは、今ここに座っている皆さんです。」

教師が意識を高くもって、自ら向上し続けなければならない……。図工美術教育を推進する立場として、気持ちの引き締まる思いでメッセージを受けとめました。

そして、来年度4月、いよいよ小学校から新学習指導要領が全面実施となります。今年度も、改訂を意識しながら当研究会の活動を進め、手応えのある成果を得ることができました。8月に「夏季研修会」、11月に「中越教育美術展審査会」、1月に「中越教育美術展」、1月末から2月にかけて「教職員美術展2020」を開催しました。また、「中越教育美術展作品集」を刊行し、この「会報」を発行しました。

作品集の刊行にあたっては、令和という新しい時代を迎えたことにあわせて、表紙をより明るく弾んだイメージに作り替えました。

また、8月に下越地区で開催された県美大会において、小・中学校の会員からそれぞれ1実践を発表してもらいました。

会員の皆様の工夫と努力、協力のお陰で、図工美術教育の発展につながる充実した取組ができましたことに、心からお礼申し上げます。

### 「保育士・教師の資質・能力の向上」

中越教育美術展は、当研究会の最大の事業です。中越地区

を中心とした県内の園や学校から応募いただいた作品は、子どもたちのつくり出す喜びが伝わってくる力作が多く、審査会は、貴重な研修の場となっています。今回も、「どのような作品が生まれたのか」と、審査をする中で思わず語り合いたくなる魅力的な作品にたくさん出会うことができました。

2次審査にあたってくださった大学教授の方々も、本美術展に息づいている文化と子どもたちの育ちを高く評価し、関心と期待をもって携わってくださいました。

また、展覧会で寄せていただいたアンケートにも、本美術展の意義を価値付けてくれる内容が多数ありました。「子どもの素直な作品を観て、時代に負けない「力」を感じ取ることができて、安心した。」「描きたいことを自由に描くという作品がたくさんあって楽しい気持ちになった。何か規制にとらわれている大人に、もっと自由に生きていいよ、というメッセージをくれているように思った。」等からは、発達段階にふさわしい創造性に心を動かされている様子が伝わってきました。

こうした作品が教室から生み出されていることは大変うれしいことです。指導過多であったり放任であったりすることなく、目の前の子どもの思いを、身を重ねるようにして感じ取りながら、創意工夫して授業づくりに取り組む教職員が広がっている証であると捉えています。

新学習指導要領においても、子ども自身に備わっている資質・能力を一層伸ばすという図画工作科の立場は変わりません。子どもの思いを生かし、子どもが自分なりのつくり方を工夫することに充実感をもてるような授業が実践されることを期待します。

事業の開催にあたっては、新潟県教育委員会や長岡市教育委員会からご後援をいただき、また新潟日报社や新潟県教職員厚生財団、日本教育公務員弘済会新潟支部から多大なご援助をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

## 令和元年度 中越美術教育研究会 事業内容

- 第1回 理事会・代議員会
  - ・令和元年5月31日(金) アトリウム長岡
  - 会務決算報告・予算事業計画審議等
- 第1回 研究部会
  - ・令和元年7月29日(月) 長岡造形大学
  - 夏季研修会事前準備
- 「第52回 夏季研修会」
  - ・令和元年7月30日(火) 長岡造形大学
  - ・参加者30人
- 第1回 美術振興部会  
(中展委員会・広報委員会)
  - ・令和元年8月20日(火) 上組小学校
  - 審査会計画・作品集・会報原稿依頼等
- 教職員美術展 第1回 実行委員会
  - ・令和元年8月20日(火) 上組小学校
- 中美展1次審査会
  - ・令和元年11月14日(木) 上組小学校
  - ※審査員30人
- 中美展2次審査会
  - ・令和元年11月22日(金) 上組小学校
  - 群馬大学 林 耕史 教授
  - 東京造形大学 山田 猛 教授
  - 十文字学園女子大学 名達 英詔 教授
- 第2回 中美展委員会
  - ・令和元年11月22日(金) 上組小学校
  - 展示・授賞式計画等
- 第2回 広報委員会
  - ・令和元年11月22日(金) 上組小学校
  - 展示・授賞式計画等
- 教職員美術展 第2回 実行委員会
  - ・令和元年11月22日(金) 上組小学校
  - 教美展案内発送等
- 「第55回 新潟県中越教育美術展」
  - ・会期 令和2年1月9日(木)～13日(月)
  - 長岡市美術センター
  - ・入場者数 3,961人
  - ・応募点数 21,592点 展示点数 663点
  - ・特別賞授賞式 令和2年1月13日(月)
- 「中越教職員美術展2020 ～第25回～」
  - ・会期 令和2年1月29日(休)
  - ～2月2日(日)
  - 長岡市美術センター
  - ・出品点数 66点
  - ・入場者数 469人
- 第3回 広報委員会
  - ・令和2年2月14日(金) 上組小学校
  - 中美作品集の校正
- 第2回 理事会
  - ・令和2年2月26日(水) 上組小学校
  - 各事業の反省と次年度への提言
- 「第55回 新潟県中越教育美術展・作品集」の発行
  - ・作品集 第29集 発行
  - ・中美研会報144号 発行

## 第52回 夏季研修会報告

# 「スクラッチボードDE石膏像デッサン ～『見つめる』を見つめ直す～」

研究部長 長岡市立柿小学校 永井 毅人



【講師】 研究副部長 丸山 実

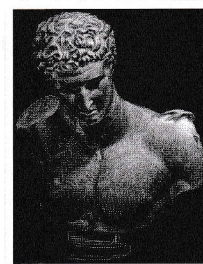
【日時】 7月30日(火) 9:30～16:00

【会場】 長岡造形大学デッサン室

【参加者】 中越地区の小学校・中学校・特別支援学校より27名 長岡造形大学生3名

【参加者のアンケートより】

講座の満足度 とても満足 88% まあ満足 12% やや不満・不満ともに0



## 参加者の感想（抜粋）

- 上手な人の表現を見せていただいたり、各々違った作品を見せていただいたりするの、楽しい刺激だ。特に、現役の学生さんの目と技術はやはりすごかった。
- 光の当たっている所、影の表現など削り方を考えながら作品をつくることができた。もう一度、像に近寄ってみたり、触れてみたりすることで「こんな面になっていたんだ」と気付いた。私の仕事である子どもを見る目は大丈夫？日常生活で見ていることは確かなこと？とも思った。
- スクラッチは、削り進めながら様々な表情を生み出せるよさがあり、失敗してもポスカで修正しながらチャレンジできるよさも有り、子どもたちにも作り、作りかえられる教材だと思った。
- 光の当たり方、強さを彫りで説明するという言葉に大変納得がいったが、いざ彫るとなると難しかった。版画の彫る方向や絵の具の塗り方を考えるときに今後生かせそうだ。丸山先生の温かな御指導で苦勞しながらも楽しく彫り進められた。ありがとうございました。
- 形、光と影を機械的に見つめることに専念しようと思ったが、「この像、イケメン」とか「何を考えているのかな」と、自分の思いや想像が頭に浮かんでくる。「見る」行為に伴う雑念でもあるが、これが個性的な表現を生み出す愛すべきものだとも思った。
- ものを見つめ、自分の作品を見つめ、自分の思いを見つめるという表現の基礎の重要性を再認識した。
- 見えているはずが、描き出せない。つまり、よく見えていなかった（見ていなかった）ことが分かった。
- 学生さんの一人が、何と本日参加された先生の教え子だった。研修内容も刺激的だったが、私たちの教え子が造形を志して人生を歩んでいることが何ともうれしく、私も「私の教え子です」と言えるように実践したい。



今回の夏季研修では、新学習指導要領の実施を目前に控えた今、石膏像デッサンに挑戦し、造形表現の一つの原点である「見る」行為を見つめ直してみました。石膏像の写真をトレースして形をとるので、初心者にも取り掛かりやすい一方で、一般的な石膏像デッサンとは逆にスクラッチボードを削ったところが明部になると

いう抵抗感もあるため、経験の多少にかかわらず興味深いデッサンでした。

参加者全員が制作に没頭しスクラッチボードを削る音だけが響く中、上記「感想」にあるように、それぞれに「見る」意味を再考・再発見することができました。

研修内容を考案し、レクチャーして下さった丸山先生、そして、デッサンインストラクターとして3名の現役学生さんと、素晴らしい会場を提供くださった長岡造形大学の皆様のおかげで、充実した研修会になりました。たいへんありがとうございました。

### 第32回 新潟県美術教育研究大会・下越大会 実践発表

## 他者や社会とつながり、 思いをひろげる子どもの育成

見附市立見附小学校 樋浦 吉人



8月7日に新潟県美術研究大会・下越大会/下越美術教育研究大会が開催されました。中越地区の代表として、実践発表を行いました。

#### 1 大会テーマ「つながる・ひろがる」

自分のこれまでの実践を振り返ると、「子どもたちがつながり発想がひろがる」「表現・作品がつながり、ストーリーや意味・価値がひろがる」ことがありました。また、「共同製作」「造形遊び」の実践は、子どもたちや表現・作品が「つながる・ひろがる」ことそのものではないかと捉えました。

#### 2 実践の紹介

##### ①子どもがつながる

製作過程で、観合ったりアイデアを紹介し合ったりする場面はどの題材でもしばしば見られます。友達との関わりによって発想をひろげる姿です。6年生「くるくる回して」では、クランクを利用したおもちゃをつくり、廊下に展示しました。他の学年がそのおもちゃで遊ぶことをきっかけに、下学年と楽しそうに話す姿が見られました。人間関係もひろがった例として紹介しました。

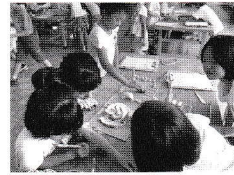
##### ②表現や作品がつながる

子どもたちの作品同士がつながって新しい発想が生まれてくる、そんな様子が見られる題材で見られます。2年生「ピコリン星人」では、それぞれがつくったピコリン星人が友達になり、パーティー会場がつくられたり、皆が乗れるバスがつくられたりとストーリー、表現がどんどんふくらんでいきました。表現がひろがる様子を画像で紹介しました。

また、3年生「ねん土マイタウン〜トミカの走るまち」では、それぞれが粘土でつくったまちがつながり合って、大きなまちになっていく題材です。トミカ(ミニカー)を使って、そのまちを走らせながら鑑賞させる「トミ鑑賞」と合わせて、題材の流れや、抽出児の変容を紹介しました。

##### ③共同製作

共同製作は、つながってひろげていくことを前提として、つくったり表現したりしていくものです。3年生の共同製作「ふんわりふわふわ」などの実践を紹介しました。



##### ④造形遊び

造形遊びは、自分が好きなように遊ぶことから始まり、徐々に友達と遊びを紹介したり共有したりしながら、遊びを発展させていきます。作品づくりにこだわらない点を除けば、共同製作に似ています。4年生「にじいろのゆめのかけ橋」などの実践を動画で紹介しました。

#### 3 発表を振り返って

実践発表の依頼を受けて、自分のこれまでの実践を振り返りながら準備を進めました。今年で教職14年目になりますが、資料・画像がある限り遡って、どんな実践をしてきたかを振り返りました。紹介した実践の中で、古い実践は初任校のもの、新しいものは現任教(令和元年7月)のものでした。大会テーマであった「つながる・ひろがる」は、図工の実践において、また子どもたちにとって「不易」であると実感しました。最後に、実践発表の指導者である十日町市立中里中学校・丸山実先生に感謝申し上げます。また、これまで図工の授業で関わった、たくさんのおもちゃにも御礼を言いたいと思います。全て皆さんのおかげです。ありがとうございます!!

## ドキ☆ドキ 縄文土器【鑑賞・彫刻】 ～縄目に込めたメッセージ～

新潟大学教育学部附属長岡中学校 鰐淵 紀美子



本題材で生徒たちは、縄文土器の文様を鑑賞しながら縄文人の暮らしに思いを馳せ、試行錯誤しながら発想し、自分なりの根拠をもって形に表すことを楽しんだ。

長岡市の西方、馬高遺跡から縄文時代につくられたとされる火焰型土器が出土しており、勇壮な造形に親しみを感じている生徒が多い。一方で、抽象的な表現は未経験である。まずは資料写真を鑑賞して造形の特徴を押さえ、縄文人が生活用品である土器に複雑な文様を付けた理由を想像させた。班で文様の形をもとに様々な仮説を出し合い、4500年前の自分のルーツである縄文人と心をつなぎ、それぞれが発想を広げていく協働の姿が見られた。

#### □授業のポイント

育成したい資質・能力を以下のように明確にして授業に取り組んだ。

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
形や色に思いを込め、意見交換したことを、自分の発想に役立てることができ	土器の写真から見いだした文様の意味を自分なりに考え、その形に着目して構想している。	仲間との話し合いをもとに今日の学びを振り返り、それを踏まえてイメージをもつことができる。

自分の感じたことが発想のもととなるようにした。鑑賞から得たイメージを自分の表現に生かし、つくりながらさらに発想を広げ、つくりたい文様について考えながらつくり、形を決定する。

このように、つくる過程に意識を向けさせた。粘土に大胆な溝や穴、顔の形や縄目を付け、造形を楽しみながら、次第に自分の制作した文様に意味を生成させた。その思いを鑑賞時に伝えることと、造形に対する見方が広がることをねらった。制作時の工夫について意見交換することは、豊かな交流を生んだ。自分が表したい形をつくるためにどんな道具をどのように使うとよいかという話し合いは、どの生徒にとっても考えを述べやすかった。生徒の発言をもとに、道具の配置や教室の動線など、教室環境も随時整えた。

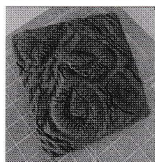
#### □成果(こどもの姿と教師の学び)

・自分が納得できるよさをもつ作品に仕上げるために、鑑賞時に気になった形に着目させて作品のアイデアを膨らませたこと(思考力・判断力・表現力)

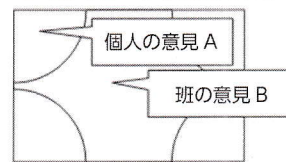
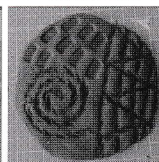
自分の選んだ形を組み合わせて作品をつくる時、文様のよさに根拠をもたせてイメージを膨らませた。アイデアスケッチに思いを書き足しながら自己内対話に浸らせ、文様のよさや意味について語ることを楽しませることができた。

・イメージに合うように、導入の鑑賞で文様の特徴を十分に味わったこと(知識及び技能、学びに向かう力・人間性)

導入時に写真で土器の文様を鑑賞した。「想像したことや興味をもった自分の感性を大切に、文様を組み合わせて縄文を楽しもう。」と投げかけた。下のようなワークシート(A2サイズ)を使い、個人の意見Aを書かせた後、中央に班の意見Bをイメージマップでまとめていく活動を行った。Bで話し合いが広がらない場合、Aを読み合って意見を繋ぐことで話し合いが活性化した。



生徒作品「縄文文様」



班で使用するワークシート

# 中越教職員美術展2020 ~第25回~

●会期 / 令和2年1月29日(水)~2月2日(日)  
 ●会場 / 長岡市美術センター (長岡市立中央図書館2階)  
 ●主催 / 新潟県中越美術教育研究会

●後援 / 長岡市教育委員会 新潟日報社  
 一般財団法人 新潟県教職員厚生財団  
 公益財団法人 日本教育公務員弘済会新潟支部

No.	題名	出品者
1	満月妙高	F50 池上 秀敏 元教職員
2	アサバスカ氷河に立つ	F6 結城 和廣 元教職員
3	城へ続く路	F20 藤本 市郎 羽羽・羽羽中学校
4	思い出のヴェネツィア	90×100
5	空遙く-洗濯日和	90×90
6	北のセメント工場	F100 石川 吉郎 元教職員
7	風景 (令和元年)	F100 桑原 収 元教職員
8	魚野川河岸待春	F100 水落 裕子 元教職員
9	諸行無常	F20 上坂 義則 元教職員
10	猫たちと	F30 阿部 勝則 十日町総合高校
11	立つ人	F40 鈴木 清子 栃尾高校
12	nude I	65×50
13	nude II	65×50
14	立つ人	P100 高井 将行 出雲崎高校
15	時の狭間 2020 - 1	45.0×38.0 中嶋 均 元教職員
16	時の狭間 2020 - 2	51×51
17	ボツワナ共和国のイメージ (2019年鑑賞展・国際コンペ出品作品)	34.5×39.5 清田 夏樹 長岡・深沢小
18	説明パネル	37×55
19	闘牛の日常V	F30 小林 学 長岡・黒条小
20	自画像	53×36 佐藤 隆幸 長岡・関原中
21	教室風景 (6月)	M12 恩田 康一 見附・南中
22	デッサン習作1 (ふたり)	59×75 濁川 徳一 長岡・十日町小
23	デッサン習作2 (ふたり)	59×75
24	水道タンクのある風景	M60 南雲 学 小千谷市立総合支援学校
25	夏色	F30 高橋 淳一 十日町・南中
26	雪割草	F8 岡本 真梨 長岡・南中
27	八海山とカタクリ	F8
28	うつらうつら	B1 石黒 裕子 元教職員
29	子どもたちへのたより(夏・冬)	21×29.7 池田 義広 長岡・上組小
30	いたづらな指	15×15×2 野村 宏毅 三条・第三中
31	ゆめ	22×16 目黒 由美 長岡・上組小
32	響	22×16 村山 裕之 県立近代美術館
33	チュウリップ	F0(18×14) 五十嵐由美子 小千谷・東小千谷小

No.	題名	出品者
34	揺れる	F0(18×14) 鰐淵紀美子 附属長岡中
35	命・絆・夢を感じて	A4 佐藤久美子 長岡・豊田小
36	S氏の肖像	29×19 金澤 健志 三条・保内小
37	人物像	F30 森山 みさ 堀之内高校
38	黒の静物	F0 丸山 一夫 大手高校
39	空を飛ぶ	20×20×36 堀田 正 北陸学園
40	風の音	15×20×30
41	業	40×40×10 田中 大志 長岡・長岡聾
42	緑	90×60×7
43	無題	F100 柳 誠一郎 魚沼・小出中
44	ヒシとサンの構成②	135×80 田中 幸男 小千谷西高校
45	ヒシとサンの構成①	225×80
46	忘れ物	63×148 溝口 敏美 長岡高校
47	想	90×90×5 田村 敏宏 長岡・寺泊中
48	風景 - Prism-C	90×180 中村 信 見附高校
49	風景 - Prism-R	90×180
50	東大寺戒壇堂 広日天像 (模刻)	45×45×102 立川 厚生 ギャラリーみつけ
51	黒の静物	44×52 丸山 一夫 大手高校
52	夢IV	60×50×145 齊藤 博文 見附・西中
53	木彫小箱例示作品	12×18×5.5
54	芳風	30×40×50 柴野ひさ子 元教職員
55	中美実技研修作品	A4 五十嵐由美子 小千谷・東小千谷小
56	中美実技研修作品	A4 恩田 康一 見附・南中
57	中美実技研修作品	A4 池田 義広 長岡・上組小
58	中美実技研修作品	A4 田村 敏宏 長岡・寺泊中
59	白露	15×15×30 富所 弘弘 小千谷市立総合支援学校
60	あのこのいばしょ	B5 中沢ゆかり 見附・見附小
61	中美実技研修作品	A4 小林 学 長岡・黒条小
62	中美実技研修作品	A4 目黒 由美 長岡・上組小
63	中美実技研修作品	A4 中沢ゆかり 見附・見附小
64	信濃川 春と秋/初夏と冬 (裏面)	5×37×20 南雲 学 小千谷市立総合支援学校
65	釈迦如来	12×14×20 上坂 義則 元教職員
66	打ち上げ開始でございます!	9×9×4.5 津端 朝宏 長岡・山古志小

## 『中越教職員美術展2020 ~第25回~』について

中越教職員美術展 実行委員長 村山 裕之



会期：令和2年1月29日(水)~2月2日(日)

会場：長岡市美術センター

今年は例年になく暖冬となり、雪のない展覧会を迎えました。来館数は469人と例年より少なめでしたが、足を運んでいただいた方々に感謝を申し上げます。今年の出品者は43名、作品総数は66点。出品者の中では、個展や中央展に出品のため、この展覧会に出品できなかった方もおりましたが、一人で数点出品される方も多く、展示は充実していました。

退職された先生方は、ご自分のテーマを追求され、より深い表現を堪能させていただきました。身近な魚野川風景から工場地帯、満月の妙高と日本人の原風景を思わせる作品群。イタリアや氷河といった魅惑の海外の風景に目を奪われました。また、「祈り」や「時」といった精神世界の表現には心を奪われました。

高校の先生方の作品は、今年も公募展や個展に出品された作品が多く、どれも大作で、存在感にあふれていました。圧倒的な技量だけではなく、作者の哲学のようなものを感じ、観る者に問いかけてくる作品群でした。

彫刻の分野では、常連の先生方の揺るぎない技術と表現力

に優れた作品に加え、新たな出品者も増えました。その力量も確かで、今後の楽しみが一つ増えました。また、絵本やガラス工芸といった新しい分野の作品もあり、今後の作品の幅が広がる可能性を感じました。

今年も中美実技研修をはじめ、各種研修やサークルの作品も多数出品されました。各種実技研修は、美術には興味があるけれど専門の知識や技能の経験がないために制作の機会がなかった先生方にとっては貴重な時間となったと思います。また様々な表現を求め、専門的な知識・技能を高めたい先生方のニーズにも応えています。自分で手掛けた作品は愛おしいものですから、今後も出品者が増えることを願っています。

決して楽ではない学校現場の中でも、表現する楽しさや喜びを忘れずにいることは大切なことです。働き方改革実現を目指している中、制作が心を豊かにし、子どもたちの学びに結びつくものであることを願ってやみません。

最後に、展示や搬出にご協力いただいた皆様、毎年事務局のご尽力並びに葵屋画材店様からの多大なるご協力に、心から御礼申し上げます。

今後も本展がさらに充実し、発展していくことを願っております。